

# 常盤中だより



学校教育目標

「心豊かな中学生」 「自ら学ぶ中学生」 「活力あふれる中学生」



## 【小遣いと勉強】

校長 橋本 栄

通知票の成績が上がったらゲームを買って欲しい、テストの点数が上がったら小遣いを増やして、などとねだる子どもがいます。人間は、誰でも目の前に褒美があると頑張るものです。だから、小遣いを貰えるから、欲しいものが手に入るなら、と勉強に取り組む子どももいます。



アメリカで、こんな心理学の実験があったそうです。

大学生たちを二つのグループに分けて実験しました。実験内容は、パズルを解くことです。一つのグループには、パズルが一問解けるごとに1ドルずつあげました。もう一つグループには、同じくパズルを解かせましたが、何もあげませんでした。これをしばらく続けました。

すると、この二つのグループの学生の行動に違いが見られるようになりました。実験中、休憩時間が何回か設けられました。違いというのは、この休憩時間中の行動です。学生たちは、休憩時間中にもパズルに取り組みました。お金をもらっているグループの学生は、お金をもらっていないグループの学生に比べ、休憩時間中に自主的にパズルに取り組む時間が短くなっていったそうです。お金をもらわないグループの方が、自主的にパズルに取り組む時間が長かったというのです。

この実験は、次のようなことを説明しているそうです。人間は、お金や欲しい物のために努力する。しかし、お金や物以上に、勉強や仕事をやり遂げる、それ自体が楽しい、ということです。この実験のポイントは、パズルを解く楽しみをお金が邪魔しているということだそうです。

小遣いがもらえるから、欲しいものが手に入るから、最初は少しやる気が出る。しかし逆に、勉強がおもしろい、問題が解けてうれしい、もっとやってみたい、という気持ちをお金が減らしてしまう、ということになるのではないのでしょうか。

